

【公営競技事業】 経営分析・事業分析報告書

2025年3月
公営競技局総務課

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

目 的

自転車競技法、モーターボート競走法に基づき、本市財政に寄与すること等を目的として、競輪、ボートレース事業を実施。

2018年に収益事業にふさわしい経営形態へ移行し、更なる経営強化を図るため、競輪、ボートレース事業に地方公営企業法の全部を適用し、公営競技局を新設。

地方公営企業として、中長期的な視野も踏まえた経営を行っていくために、「企業理念」と「目指すべき将来像」を明確にし、10年間の取組方針や財政計画を示すため、2019年に「公営競技事業経営戦略」を策定。

同戦略において、目指すべき将来像として、「選ばれるレース場」「健全な運営・信頼されるレース場」「親しまれるレース場」を掲げ、同戦略に基づく経営を行い、安定的かつ継続的に収益を確保し、地方財政への貢献という公営競技の使命を果たす。

【自転車競技法】(抜粋)

第一条 都道府県及び人口、財政等を勘案して総務大臣が指定する市町村(以下「指定市町村」という。)は、自転車その他の機械の改良及び輸出の振興、機械工業の合理化並びに体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興に寄与するとともに、地方財政の健全化を図るため、自転車競走を行うことができる。

【モーターボート競走法】(抜粋)

第一条 モーターボートその他の船舶、船舶用機関及び船舶用品の改良及び輸出の振興並びにこれらの製造に関する事業及び海難防止に関する事業その他の海事に関する事業の振興に寄与することにより海に囲まれた我が国の発展に資し、あわせて観光に関する事業及び体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興に資するとともに、地方財政の改善を図るために行うモーターボート競走に関し規定するものとする。

「北九州市公営競技事業経営戦略」に目標値を設定

K P I （選ばれるレース場を目指して）

競輪事業

指 標		目標値 (令和10年度)	現状値 (令和4年度)
競輪祭	売上額	125億円	122億円
ミッドナイト競輪売上額 (1日当たり)		4億円	4億円
普通開催売上額 (1日当たり)		4億円	4億円
本場有料 入場者数	競輪祭	1.8万人	1.4万人
	普通開催 (年間)	2.6万人	1.8万人
受託発売の売上額 (年間)		35億円	29億円

ボートレース事業

指 標		目標値 (令和10年度)	現状値 (令和4年度)
電話投票 (普通開催)	ナイターレース場全体の売上額のうち若松が占める割合	15%	14%
	売上額 (年間)	800億円	880億円
場外 (普通開催)	ナイターレース場全体の売上額のうち若松が占める割合	13%	14%
	売上額 (年間)	145億円	171億円
ミッドナイトレース開催日数		30日	12日
S G競走等の誘致		2回	SG 1回 PG1 1回
本場有料 入場者数	普通開催 (1日当たり)	700人	725人
	周年開催 (1日当たり)	1,600人	1,670人
	S G競走 (1日当たり)	3,000人	1,077人(R3)
受託発売の売上額 (年間)		110億円	92億円

資料：北九州市公営競技事業経営戦略【後期計画（令和6年度～令和10年度）】

クラスターの目的・目標③

「北九州市公営競技事業経営戦略」に目標値を設定

K P I（親しまれるレース場を目指して）

競輪事業

指 標		目標値 (令和10年度)	現状値
小倉競輪のイメージ調査結果			
車券購入 未経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを知っている	45%	23% (R5)
	遊びに行きやすい	25%	19% (R5)
	地域や社会に役立っている	70%	68% (R5)
車券購入 経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを知っている	70%	64% (R5)
	遊びに行きやすい	80%	73% (R5)
	地域や社会に役立っている	90%	93% (R5)
施設利用関係			
北九州メディアドームの年間利用者数 (貸館)		100,000人	19,881人 (R4)

ボートレース事業

指 標		目標値 (令和10年度)	現状値
ボートレース若松のイメージ調査結果			
舟券購入 未経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを知っている	45%	22% (R5)
	遊びに行きやすい	25%	14% (R5)
	地域や社会に役立っている	70%	67% (R5)
舟券購入 経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを知っている	70%	60% (R5)
	遊びに行きやすい	80%	77% (R5)
	地域や社会に役立っている	90%	91% (R5)
施設利用関係			
地域貢献エリア等年間利用者数		150,000人	30,978人 (R4)

資料：北九州市公営競技事業経営戦略【後期計画（令和6年度～令和10年度）】

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

《企業理念》

北九州市公営競技事業の目的を明確化にするため、

『小倉競輪・ボートレース若松は、事業の収益金で、将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していきます。』

という企業理念を掲げている。

《目指すべき将来像》

あわせて、上記の「企業理念」の実現に向けて、経営の基本となる「売上」、「運営・財務」、「地域・社会貢献」の3つを柱とした「目指すべき将来像」を掲げている。

【選ばれるレース場】[売上]

本市財政への貢献に必要な売上を確保するためには、小倉競輪・ボートレース若松に足を運んでもらうのはもちろんのこと、全国のファンに車券・舟券を買ってもらうこと、他の施行者等に小倉競輪・ボートレース若松のレースを発売してもらうこと、中央団体から高いグレードレースの開催場に選ばれることなどが重要となる。

そのため、「選ばれる」をキーワードとして、両事業に取り組む必要がある。

【健全な運営・信頼されるレース場】[運営・財務]

地方公営企業化は、厳しい経営環境の中にあっても、本市の収益事業としての責務を果たし、安定的かつ継続的に収益を上げることを目指すものである。そのため、「健全」・「信頼」をキーワードとして、業務運営、財務運営を行う必要がある。

【親しまれるレース場】[地域・社会貢献]

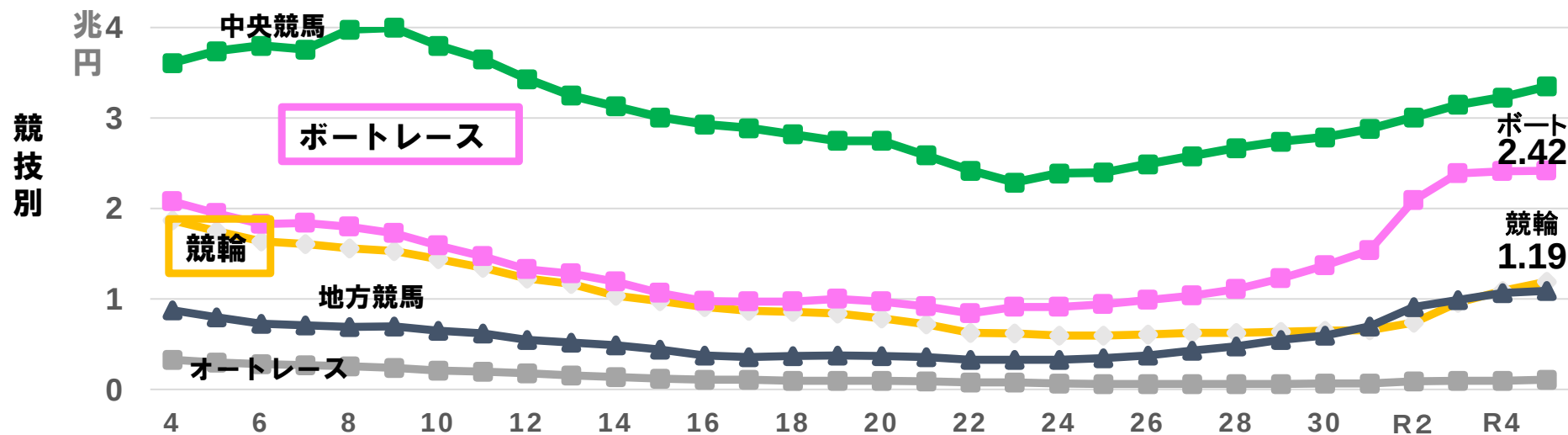
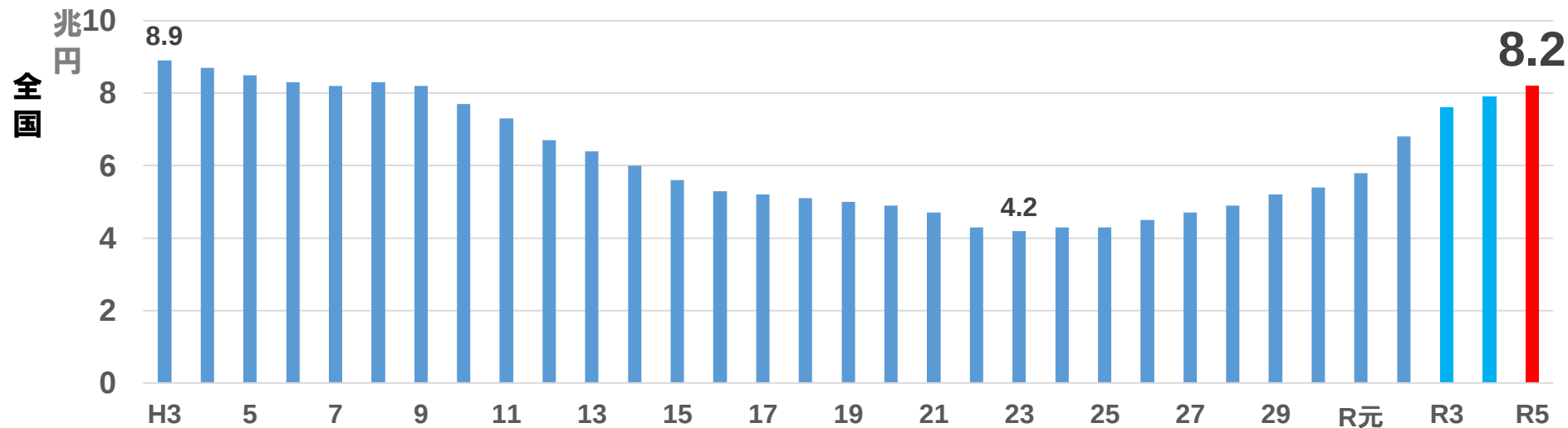
将来にわたり競輪・ボートレース事業を持続させ、企業理念を実現するためには、事業のイメージアップと市民理解の促進が不可欠となる。そのため、「親しまれる」をキーワードとして、社会貢献につながる事業であることを積極的に発信するとともに、レース目的以外でも気軽に来場し楽しめる場所にする必要がある。

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）**
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

公営競技の現状(売上)

- ・公営競技には「競馬(中央・地方)」「競輪」「ボートレース」「オートレース」がある。
- ・2019年末頃からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、いわゆる「巣ごもり需要」などにより売上額が拡大。



北九州市は2つの公営競技を施行

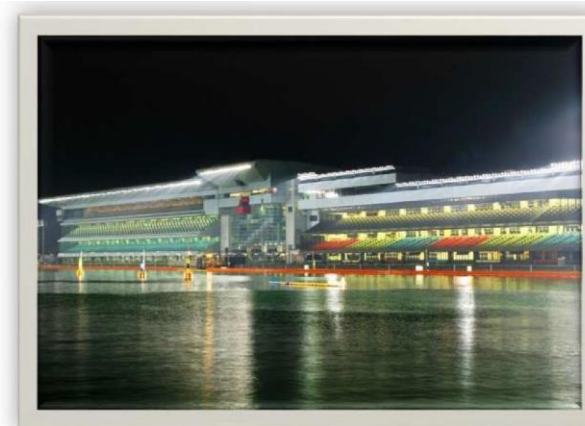
<競輪事業>

開設	:	1948年
年間開催日数	:	75日(2023年度)
車券発売額	:	427.3億円(2023年度)
単年度収支	:	14.6億円(2023年度)
来場者数	:	約2万7千人(2023年度)



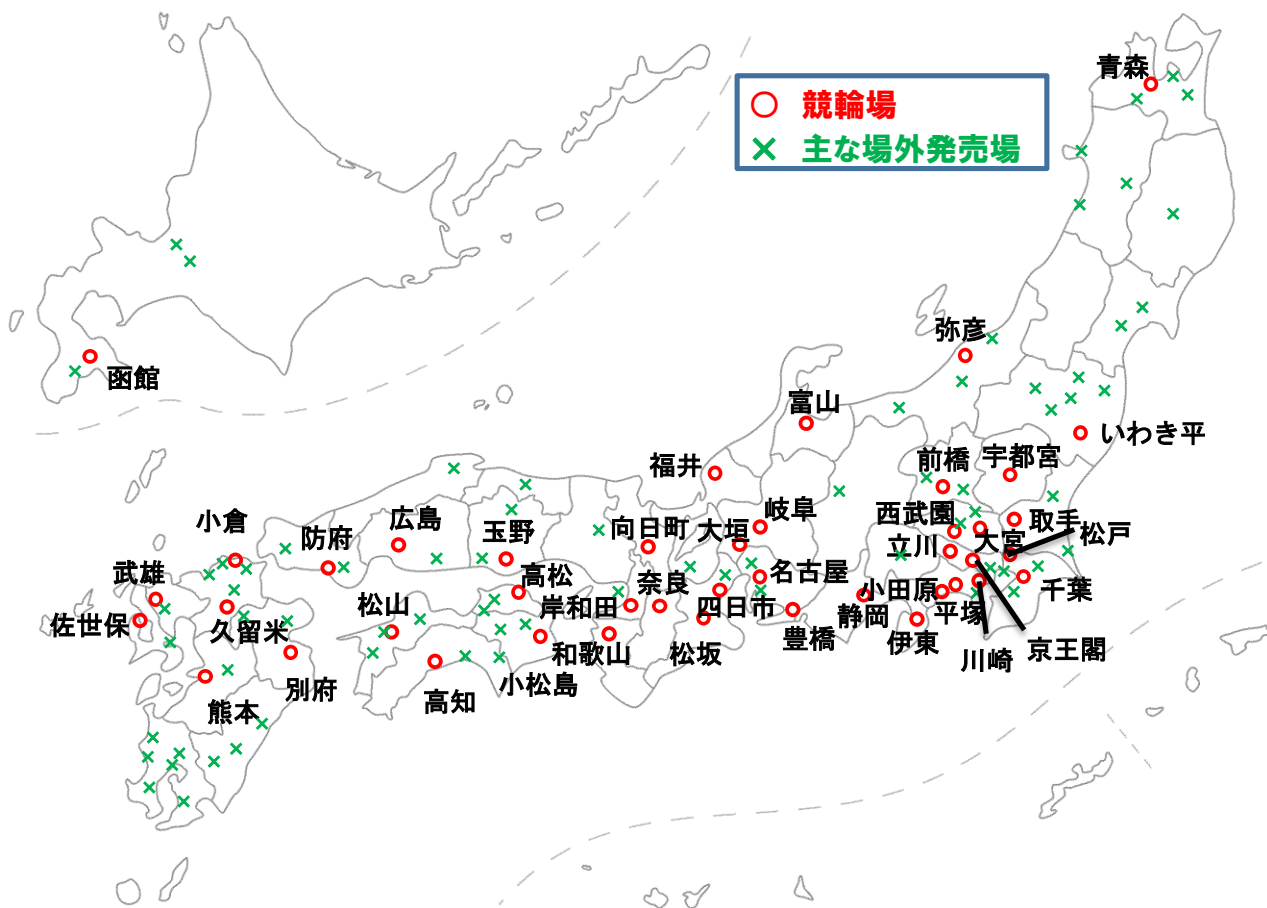
<ボートレース事業>

開設	:	1952年
年間開催日数	:	171日(2023年度)
舟券発売額	:	1,293.5億円(2023年度)
単年度収支	:	119.0億円(2023年度)
来場者数	:	約11万1千人(2023年度)



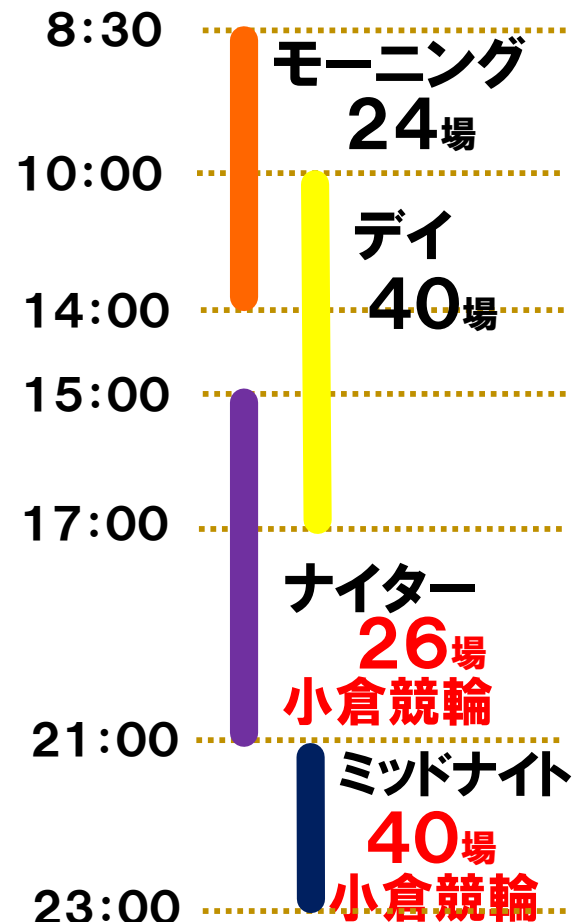
施行自治体 43
(複数自治体による組合含む)

競輪場 43 場
専用場外 71 か所



年間開催日数
2,727日 (2023年)

レース時間帯

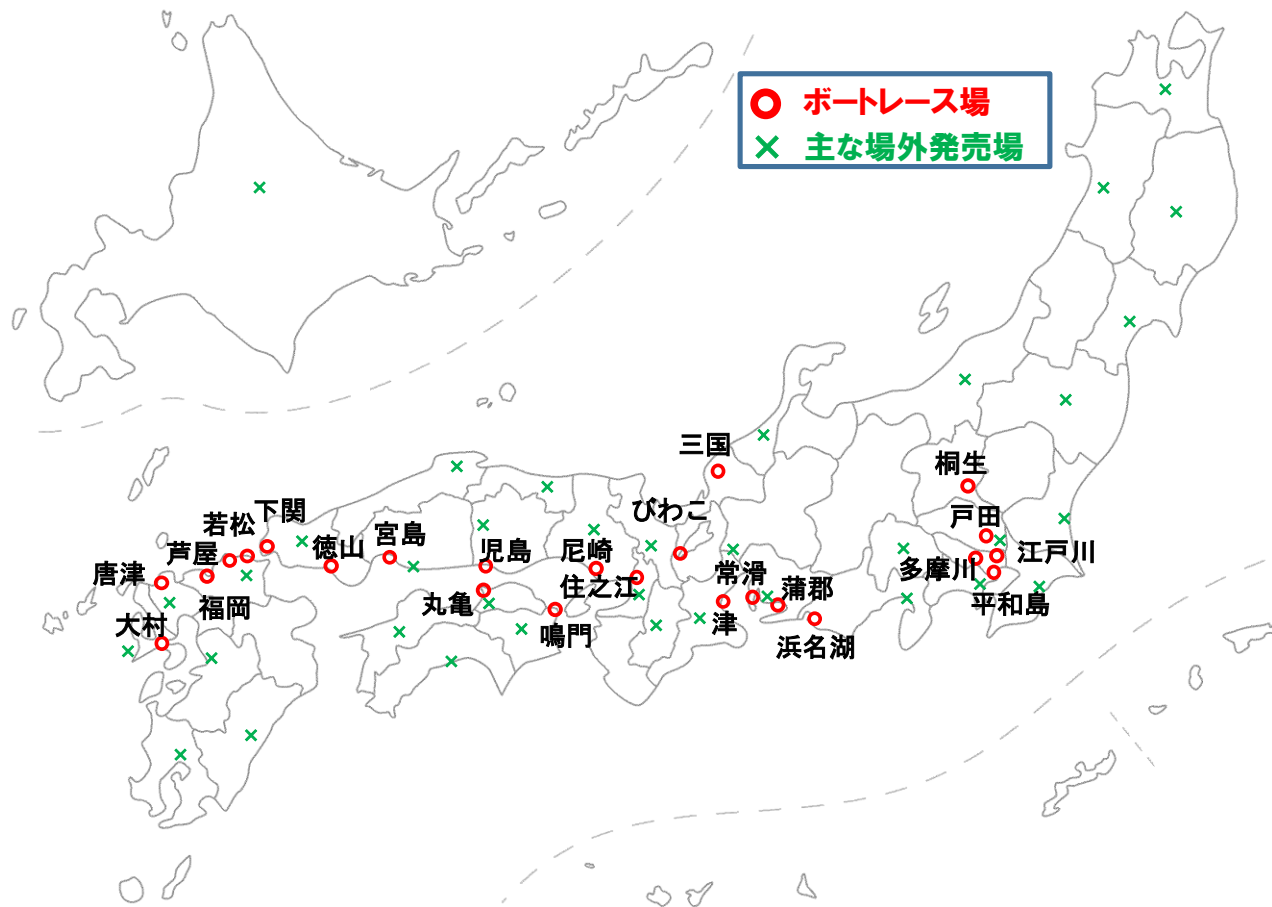


※1場につき複数のレース時間帯で開催しているため、合計(43場)は合わない

施行自治体 35

(複数自治体による組合含む)

 **競走場** **24** 場
 **専用場外** **82** 場所



年間開催日数
4,619日（2023年）

レース時間帯

8:30

モーニング

徳山、芦屋、**5場**
唐津、三国、鳴門

10:00

Day 12

戸田、江戸川、
平和島、多摩川、
浜名湖、常滑、
津、びわこ、尼崎、
児島、宮島、
福岡

15:00

ナイター7場

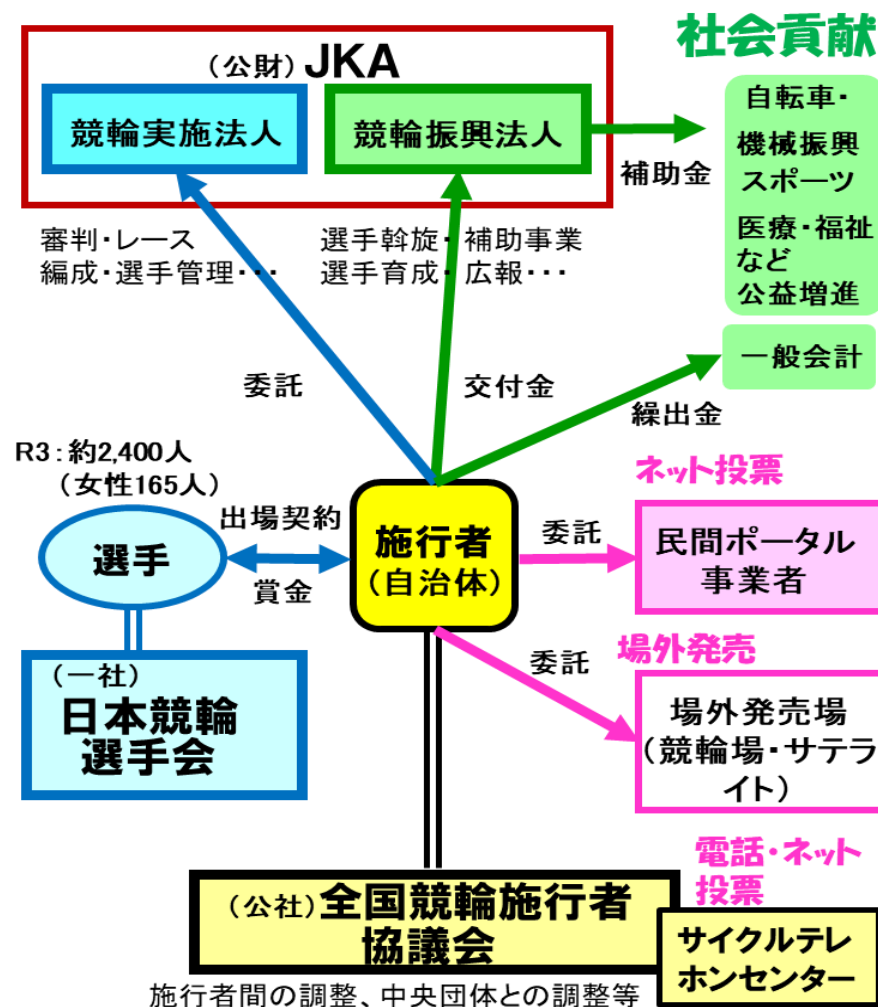
若松

大村、下関、丸亀、
住之江、蒲郡、桐生

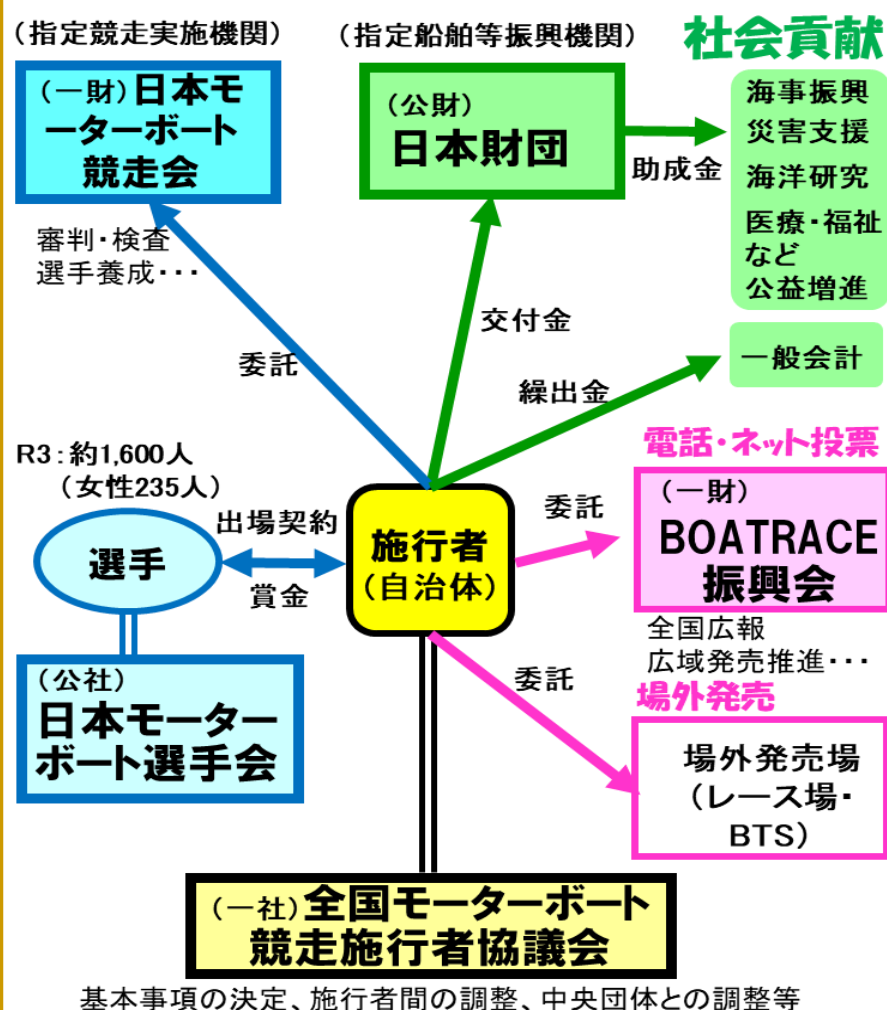
※大村、下関、若松
はミッドナイトレース
を実施

21:00
(22:00)

競 輪

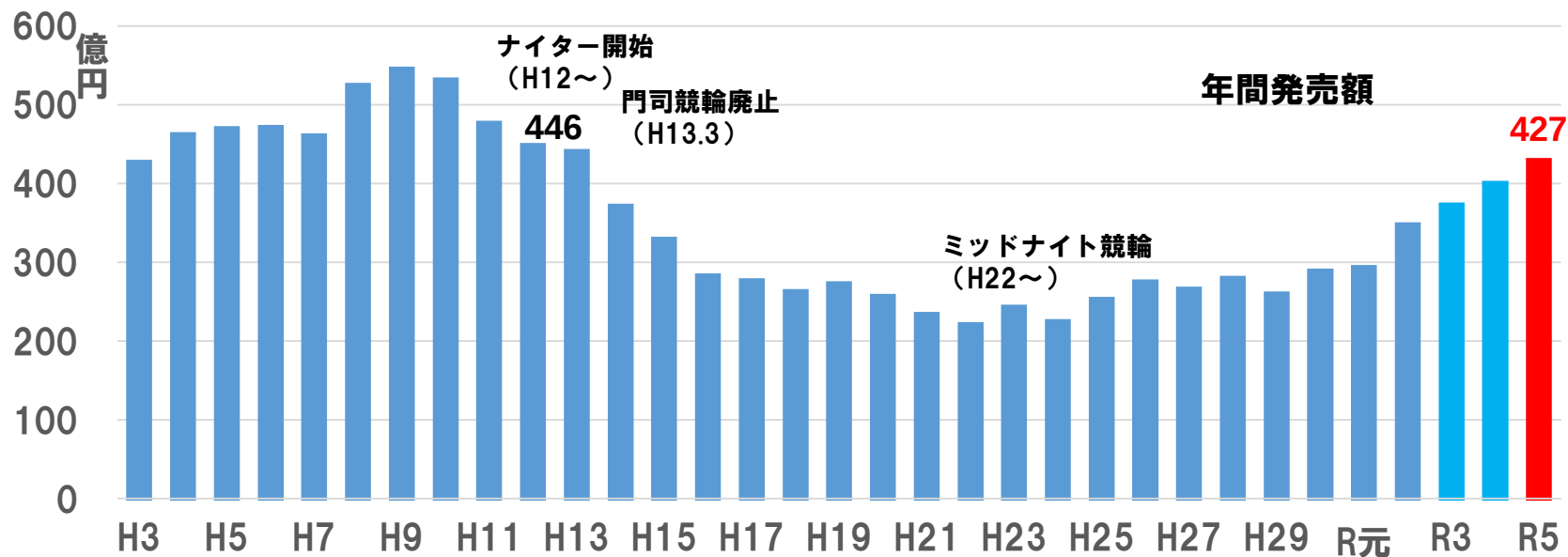


ボートレース

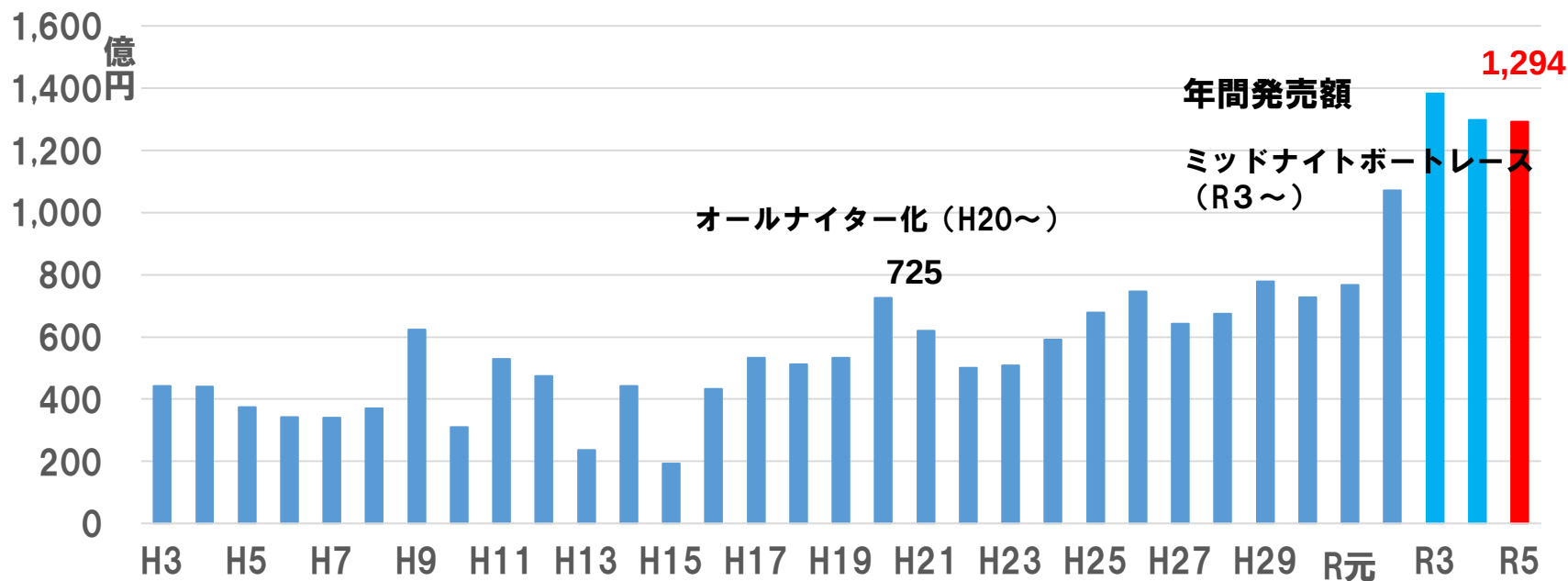


公営競技事業の概要(本市発売額の推移)

競輪



ボートレース



近年の経営状況は好調

- 2019年末頃から電話投票を中心に競輪事業、ボートレース事業ともに発売額が拡大し、競輪事業は2001年度以来の車券発売額水準、ボートレース事業は過去最高水準の舟券発売額を記録
- この発売額増加により、2023年度決算における利益剰余金(利益処分後)は、競輪事業で65億円、ボートレース事業で342億円となり、特に、ボートレース事業においては2023年度までの5年間で191億円を一般会計へ繰り出すなど、好調な経営を維持

(単位：百万円)

区分			2019	2020	2021	2022	2023
競輪	収益的収支	車券発売金	29,175	34,564	37,081	39,859	42,726
		収支差引（収益金）	579	1,197	1,446	1,310	1,472
	利 益 処 分	一般会計繰出金	0	0	0	0	0
		利益剰余金（利益処分後残高）	1,221	2,393	3,756	5,033	6,488

区分			2019	2020	2021	2022	2023
ボートレース	収益的収支	舟券発売金	76,768	107,243	138,341	129,758	129,355
		収支差引（収益金）	4,869	9,789	13,617	12,203	11,987
	利 益 処 分	一般会計繰出金	1,500	2,600	5,000	5,000	5,000
		利益剰余金（利益処分後残高）	4,419	11,574	20,161	27,342	34,241

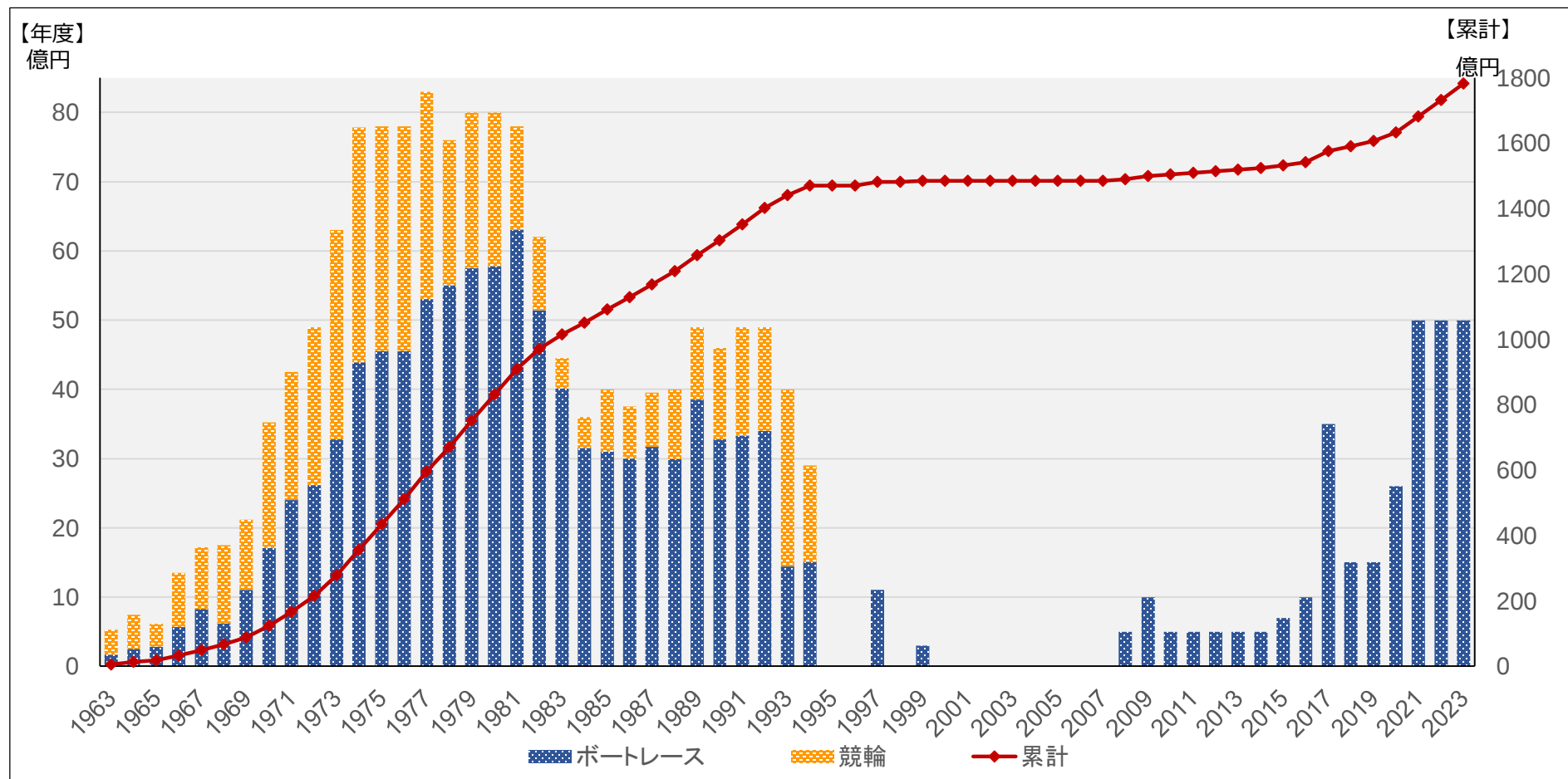
区分	企業債残高	公債償還基金残高	競輪競艇整備基金残高
競輪	2,825	716	4,676
ボートレース	984	696	

※2023年度

(単位：百万円)

多額の繰出金

■1963年の北九州市発足以降、競輪事業・ボートレース事業の収益金から、2023年度までに約1,782億円を一般会計へ繰り出し、市民生活の充実・利便性の向上等に寄与してきた。



■夏祭りの実施など競輪・ボートレース未経験者やファミリー層も来場し楽しめるようなイベント・取組を行っている。また、公営競技事業が社会貢献につながる事業であることを積極的に発信し、イメージアップを図っていくことで、市民理解を広げ、地域に親しまれるレース場となるよう取り組んでいる。

競輪事業（小倉競輪）

■ 来場促進の取組

競輪祭や吉岡稔真カップ¹¹等の開催に合わせ、競輪未経験者やファミリー層も来場して楽しめるように、タレントショーや子ども向けイベント等を行っています。



第64回競輪祭



第64回競輪祭

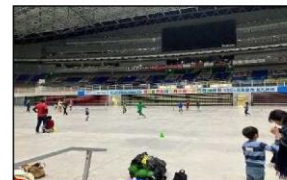


夏まつり（イベント）

■ 地域貢献の取組

① 子ども食堂「どーむきっちゃん」〔令和元年度～〕

運動遊びや競輪選手との食事交流等による子どもや親子の居場所づくりを行っています。



② 小倉競輪場のバックヤードツアー〔令和3年度～〕

小学生を対象に、選手宿舍やバンクのバックヤードツアーを行い、競輪選手や関係者との交流を通し、キャリア教育に資する機会提供を行っています。



③ イベント「スーパー紙飛行機を作って遠くへ飛ばそう」〔令和5年度〕

参加費無料で開催することで、ファミリー層が気軽に来場するきっかけとしてもらうことを目的に行いました。



ボートレース事業（ボートレース若松）

■来場促進の取組

SG競走等のレースや夏まつりの開催に合わせ、ボートレース未経験者やファミリー層も来場し楽しめるように、著名人やタレントのショー、子ども向けイベント等を行っています。



R4 周年記念競走



R4 夏祭り

また、子どもから大人まで幅広い世代を対象に、ボートレース中央団体が提唱する「ボートレースパーク化²⁴」に向け、芝生広場や子ども向け屋内外施設を備えた地域貢献エリアの整備を進めています。さらに、老朽化した西スタンド棟の改修計画により、新たなファン層の拡大を目指します。



地域貢献エリアイメージ



西スタンド棟改修イメージ

■地域貢献の取組

① 子ども食堂「くれかきっちゃん」〔令和元年度～〕

運動遊びやボートレース選手との食事交流等による子どもや親子の居場所づくりを行っています。



② ボートレース若松のバックヤードツアー〔令和5年度〕

小学生を対象に、ボートレース場のバックヤードツアーを行い、元ボートレース選手や関係者との交流を通し、キャリア教育に資する機会提供を行っています。



③ イベント「二胡・ピアノ・尺八のコンサート」〔令和4・5年度〕

参加費無料で開催することで、気軽に来場するきっかけとしてもらうことを目的に行いました。



北九州市の組織体制(執行体制)

収益事業にふさわしい経営形態へ移行し、更なる経営強化を図るため、競輪、ボートレース事業に地方公営企業法の全部を適用し、公営競技局を新設(2018年4月)

公営競技局の組織体制 (2024年度)

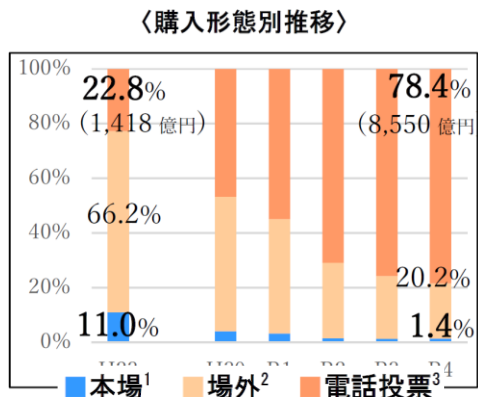
正規職員	局長 (特別職)	部長	課長	係長	職員
	公営競技局長	次長	総務課長	3	7
			競輪事業課長	3	2
			ボートレース 事業課長	6	1 1
		担当部長	地域貢献室長 (事務取扱)	1	1
人数	1	2	3	1 3	2 1
	4 0				

公営競技の状況(全国)

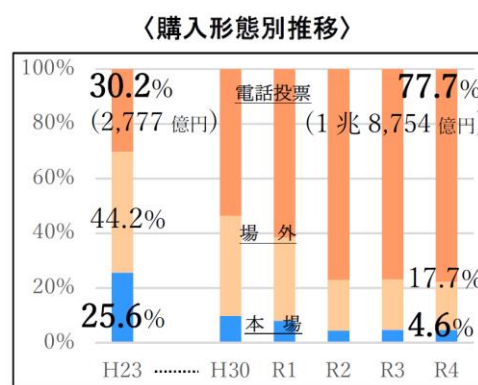
■**全国の状況は、売上額が大きく伸び、電話投票(インターネット)の売上額の割合が増している。一方で、本場の売上額の割合の減少とともに、本場入場者数も減少している。**



競輪 (全国)



ボートレース (全国)



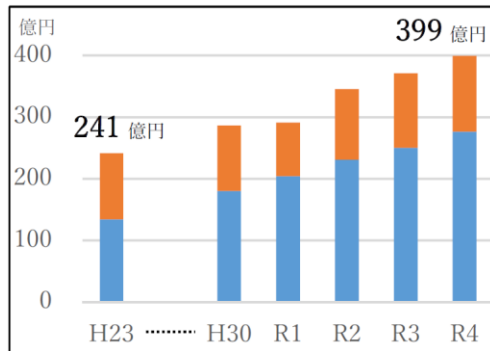
※ 1,2,3 ※競輪の購入形態別推移について、2017（平成29年度）から集計方法が変更（民間ポータルの上金額が「場外」から「電話投票」へ）されている。

公営競技の状況(北九州市)

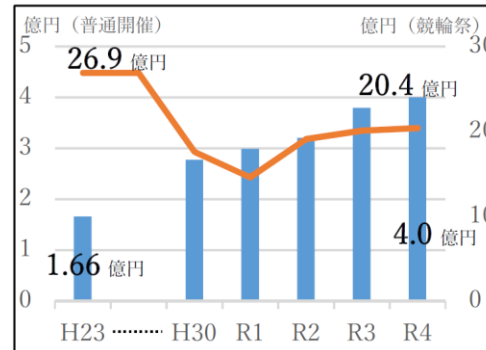
■本市においても、競輪、ボートレースともに、全国と同様、売上額が大きく伸び、電話投票(インターネット)の売上額の割合が増している。また、売上に占める競輪祭(G I レース)やSG・周年レースの寄与度大きい。

【小倉競輪】

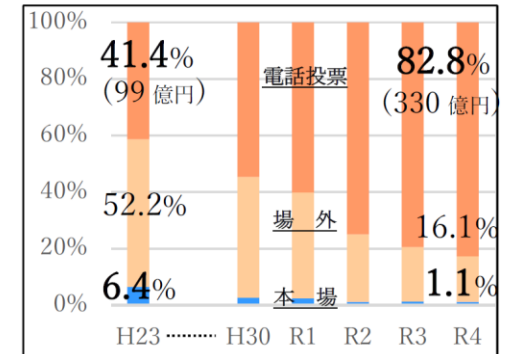
〈年間発売金額〉



〈1日当たり発売金額〉



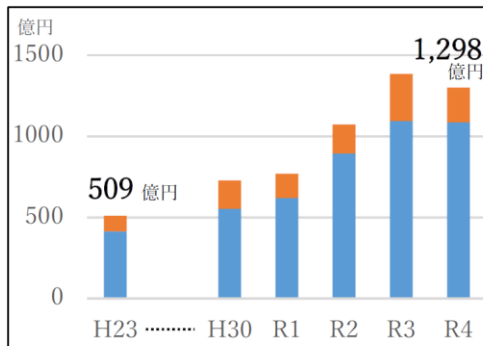
〈購入形態別推移〉



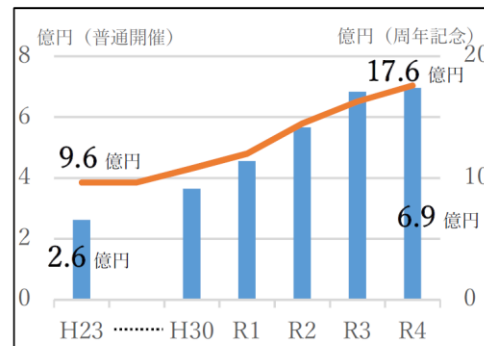
■普通開催(ミッドナイト競輪含む) ■競輪祭

【ボートレース若松】

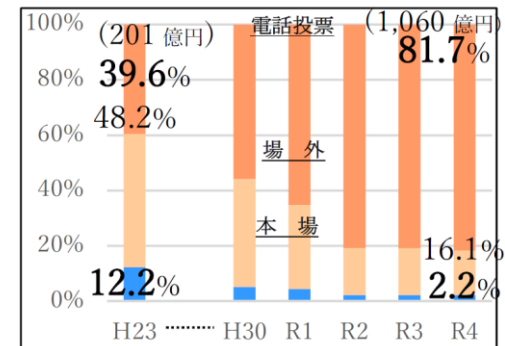
〈年間発売金額〉



〈1日当たり発売金額〉



〈購入形態別推移〉



■普通開催¹⁶ ■SG・周年記念¹⁷等

■普通開催 ■周年記念

※16 SG・GI以外の通常開催しているレース。

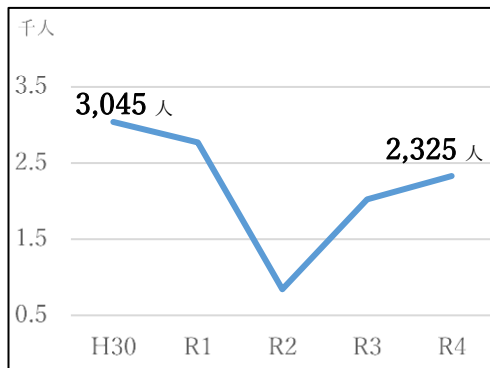
※17 レース場開設を記念して毎年開催するGIレース。

公営競技の状況(北九州市)

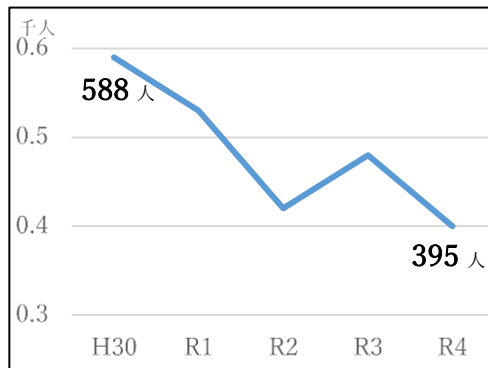
■本市においても、入場者数の減少が見られる。競輪、ボートレースともに、入場者数は元々減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大による無観客レースや入場制限の実施等の影響で顕著な減少が見られ、その後、一時回復傾向にあったものの、いまだ新型コロナウイルス感染症拡大前までは戻っていない。

【小倉競輪】

《競輪祭》

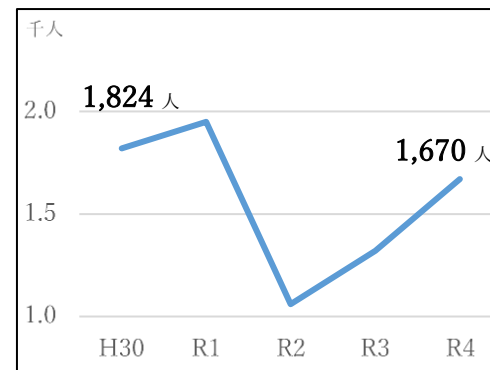


〈普通開催〉

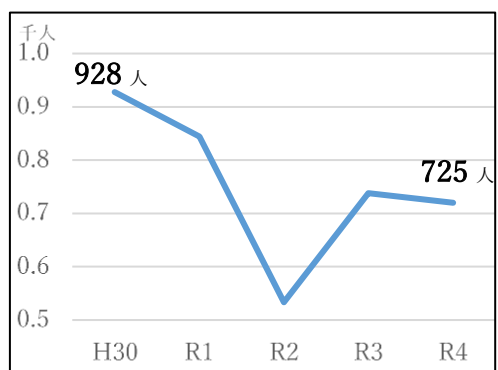


【ボートレース若松】

〈周年記念〉



〈普通開催〉



目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

競輪事業の他都市比較(2022年度)

北九州市は実質的にG I レースを固定開催しており、2022年度においては競輪場・施行者別の車券売上金額は**第1位**となっている。売上の確保にはG I レースの安定的開催が必要である。

■競輪施行者の車券売上比較（開催日数の少ない施行者を除く）

(単位:日、億円)

順位	競輪場	施行者	開催日数	車券売上金額	GP・G I 開催	順位	競輪場	施行者	開催日数	車券売上金額	GP・G I 開催	順位	競輪場	施行者	開催日数	車券売上金額	GP・G I 開催
1	小倉	北九州市	75	398.5	G I	16	高知	高知市	59	266.0	G I	31	四日市	四日市市	55	216.0	
2	平塚	平塚市	58	367.1	GP	17	久留米	久留米市	58	264.7		32	弥彦	西蒲原郡弥彦村	61	215.7	
3	別府	別府市	100	352.5		18	佐世保	佐世保市	63	259.8		33	松阪	松阪市	55	215.3	
4	西武園	埼玉県	72	348.1	G I	19	宇都宮	宇都宮市	64	259.4		34	静岡	静岡市	49	213.7	
5	岸和田	岸和田市	74	339.0	G I	20	豊橋	豊橋市	64	259.3		35	高松	高松市	58	212.7	
6	青森	青森市	77	324.1		21	京王閣	東京都十一市競輪事業組合	55	257.2		36	川崎	川崎市	46	212.2	
7	松戸	松戸市	71	322.0		22	小田原	小田原市	79	241.7		37	武雄	武雄市	57	211.5	
8	伊東温泉	伊東市	68	317.9		23	大垣	大垣市	61	241.4		38	福井	福井市	64	210.3	
9	玉野	玉野市	64	308.9		24	防府	防府市	68	237.5		39	岐阜	岐阜市	55	201.8	
10	松山	松山市	68	299.2		25	広島	広島市	76	230.9		40	取手	茨城県	52	188.6	
11	いわき平	いわき市	48	289.0	G I	26	和歌山	和歌山県	61	230.5		41	大宮	埼玉県	52	177.4	
12	前橋	前橋市	61	288.5	G I	27	富山	富山市	62	230.4		42	熊本	熊本市	25	126.2	
13	名古屋	名古屋競輪組合	64	286.6		28	立川	立川市	58	227.9		43	千葉	千葉市	92	13.8	
14	函館	函館市	64	284.8		29	京都向日町	京都府	58	227.3							
15	奈良	奈良県	58	271.0		30	小松島	小松島市	55	220.8							

ボートレース事業の他都市比較(2022年度)

2022度においては、北九州市ではSGレース・PG I レースの開催はなかったものの舟券売上金額は第6位となっている。2024年度・2025年度はSGレース誘致に成功しており、舟券売上向上が期待される。

■ボートレース施行者の舟券売上比較（開催日数の少ない施行者を除く）

(単位: 日、億円)

順位	競走場	施行者	開催日数	舟券売上金額	SG・PG I 開催	順位	競走場	施行者	開催日数	舟券売上金額	SG・PG I 開催
1	大村	大村市	200	1,807.2	SG	14	三国	越前三国企業団	180	737.3	PG I
2	蒲郡	蒲郡市	192	1,493.6		15	児島	倉敷市	174	730.0	
3	下関	下関市	186	1,364.5		16	鳴門	鳴門市	162	714.7	SG
4	桐生	みどり市	188	1,348.9		17	多摩川	青梅市	166	712.8	PG I
5	丸亀	丸亀市	168	1,303.3	PG I	18	琵琶湖	滋賀県	186	693.5	PG I
6	若松	北九州市	168	1,284.8		19	住之江	箕面市	84	659.4	
7	住之江	大阪府都市企業団	114	1,019.6	PG I	20	福岡	福岡市	168	647.6	
8	唐津	唐津市	198	950.5	SG	21	尼崎	尼崎市	130	635.7	SG
9	宮島	宮島企業団	201	891.6	SG	22	常滑	常滑市	176	612.4	SG
10	芦屋	芦屋町	192	887.4		23	津	津市	180	565.1	
11	浜名湖	浜名湖企業団	205	851.5	SG	24	江戸川	東京都六市組合	116	524.3	
12	徳山	周南市	198	844.4		25	戸田	埼玉県都市企業団	99	470.2	
13	平和島	府中市	180	841.8	SG	26	戸田	戸田企業団	99	456.6	

※住之江、戸田については、2つの施行者が同日程度開催

組織体制の他都市比較(事業課のみ実人数)

本市では競輪、ボートレース事業ともに職員数は、全国平均より少なく効率的に業務を行っている。

【競輪事業】

一施行者当たりの職員数(平均)	10.85人
北九州市職員数	8.5人

⇒43施行者中少ない方から15番目

【ボートレース事業】

一施行者当たりの職員数(平均)	22.3人
北九州市	18.5人

⇒26施行者中少ない方から10番目

注:北九州市は部長職が競輪事業とボートレース事業を兼任しているため端数が出ている。

優れている点

《競輪事業》

- ・競輪発祥の地であること(11月20日 競輪発祥の日)
- ・年間6レースしかないGⅠレースのうち「競輪祭」を実質、固定開催しており、安定的な売上を確保できること

《ボートレース》

- ・売上の多いナイター場(全国7場/24場)であり、かつ、ミッドナイトレース実施場(全国で3場のみ)であることから、安定的な売上を確保できること
- ・中央団体が提唱する「ボートレースパーク化」を推進中であること

劣っている点

《競輪事業・ボートレース事業》

- ・本場有料入場者数の低迷
※2023年の状況(多いほうから)
競 輪 43場中27番目
ボートレース 24場中21番目

《競輪》

- ・メディアドームの施設改修(大規模改修)による経費負担増

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題（変革案）実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

車券・舟券購入未経験者の事業や財政的貢献に対する認知度が低い。

イメージ調査結果

	指標		現状値 (2023年度)	経営戦略改訂時 (2021年度)	経営戦略策定時 (2018年度)
小倉競輪	車券購入 未経験者	遊びに行きやすい	19%	15%	17%
		地域や社会に役立っている	67%	63%	64%
	車券購入 経験者	遊びに行きやすい	76%	67%	76%
		地域や社会に役立っている	94%	85%	87%
ボートレース若松	舟券購入 未経験者	収益金が本市財源に充てられていることを知っている	22%	35%	39%
		遊びに行きやすい	15%	13%	15%
		地域や社会に役立っている	66%	61%	59%
	舟券購入 経験者	収益金が本市財源に充てられていることを知っている	61%	70%	63%
		遊びに行きやすい	79%	69%	71%
		地域や社会に役立っている	89%	84%	82%

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例**
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

ボートレースパーク化

地域に開かれたボートレース場とするため、レース場に子ども達が遊べる施設や広場等を整備する取組。本市においても、整備を進めており、令和7年度一部供用開始予定。

常滑市(Moooviとこなめ)



丸亀市(Grüünまるがめ)



※1 Mooovi(モーヴィ)…ボートレース場とあそびの専門企業「ボーネルンド」が協働でからだあそびを通じて子どもたちの成長を応援するためのあそび場。

※2 Grüün(グルーン)…子どもたちの健全な育成と老若男女問わず世代間交流ができるコミュニティの拠点。

資料:ボートレース常滑及びボートレース丸亀ホームページより出典

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）**
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

◆課題(変革案)1

内容:課題名「選ばれるレース場〔売上〕」の実現

本市財政(一般会計)への貢献に必要な売上を確保するためには、常にファンや中央団体などから、「選ばれる」レース場であり続けることが必要である。

(状況)

【競輪事業】

- ・ここ数年、好調な売上が続いているが、ミッドナイト競輪に参入する自治体が増えたため、本市のミッドナイト開催の売上が鈍化している。
- ・今後は競合開催における売上確保に向けた取組が必要であるとともに、新規ファンの獲得に向けた取組などが重要である。

【ボートレース事業】

- ・2020年度、2021年度に過去最高売上を更新し、2022年度以降も同水準を保っているが、新型コロナウイルス感染症の収束以降の社会情勢を注視しながら、売上確保に向けた取組が必要である。
- ・特に本場のボートレースパーク化の推進など業界への貢献を通じて、SGレース等のビッグレース開催場として選ばれることが重要である。

◆課題(変革案)2

内容:「健全な運営・信頼されるレース場〔運営・財務〕」の実現

安定的・継続的に収益を上げるためには、健全な財政運営を行うとともに、信頼されるレース場として、施設の適正な維持管理が必要不可欠である。

(状況)

【競輪事業】

- ・北九州メディアドームは築25年が経過するなど、施設の老朽化が進行しており、将来的に大規模な改修工事が見込まれ、整備内容の検討や改修にかかる財源の確保などが必要。
- ・確実に企業債償還を行いながら、健全な経営を継続し、一般会計繰出しの再開に向け、今後の収支や資金需要など財務分析に基づいた経営を行う必要がある。

【ボートレース事業】

- ・安定的なレースを開催するため、施設の日常点検等を行うとともに、老朽化した施設の大規模改修を実施する必要がある。
- ・2020年度以降、過去最高水準で舟券の売上額が推移しており、健全な経営を維持しながら一般会計への繰出しも高水準で実施している。今後も、収益確保に努めるとともに、継続的に一般会計への繰出しを行いつつ、剰余金の活用を図る必要がある。

◆課題(変革案)3

内容:「親しまれるレース場〔地域・社会貢献〕」の実現

場の付加価値を向上させ、将来にわたり競輪・ボートレース事業を持続的に実施するためには、これまで以上に、事業のイメージアップや市民理解の促進などにつながる取組を、積極的に展開する必要がある。

(状況)

- ・2023年度に実施したアンケートにおいて、特に車券・舟券購入経験の無い人の競輪・ボートレース事業の公益性などに対する認知度が低い。
- ・多くの人に当該事業を認知してもらえよう、社会貢献につながる事業であることを積極的に発信するとともに、レース目的以外でも気軽に来場し楽しめる場所にする必要がある。

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

課題(変革案)を実行するため、以下の打ち手が考えられる。

◆課題(変革案)1の打ち手

課題に対して、競輪事業・ボートレース事業ともに費用対効果を意識しながら、以下のような取組を行う。

【競輪事業】

- 競輪祭の実質固定開催場としての知名度、屋内レース場での安定開催の優位性を活かし、中央団体や民間ポータルとの連携による全国からの集客、SNS等を通じた新規ファン獲得などの売上向上策に取り組む。
- テレビCM放映等の効果的な広報宣伝の実施等により、既存ファンの確保と新規ファンの獲得に努め、来場者数の増加に取り組む。

【ボートレース事業】

- 企画レースの実施など魅力あるレースの提供や開催日程の調整などにより、安定した売上を確保する。
- 中央団体や関係団体と連携・協力することで、SG競走等のグレードレースの誘致を実現し、来場者の増、ファンの拡大につなげる。
- 西スタンド棟改修等による快適な空間の提供やファンサービスの充実を図ることで、既存ファンの確保と新規ファンの獲得の双方を実現する。

◆課題(変革案)2の打ち手

【競輪事業】

○企業債の償還に取り組みつつ、将来的に必要な大規模改修の費用を確保する。

- ・2026年度までに企業債を完済
- ・2028年度までに供用30年の節目を迎えるドームの大規模改修費用を確保
- ・企業債の完済に合わせ、一般会計への繰出しを再開

○レースを安定的に実施するため、計画的な施設・設備の改修を実施する。

- ・大規模改修以外の施設の計画的な改修
- ・大規模改修の方針策定に着手

【ボートレース事業】

○年間約200日にも及ぶレースを安定的に開催するため、計画的な施設・設備の改修に取り組む。

○本場内の発売体制の効率化などにより、健全な業務運営に取り組む。

○収益金(剰余金)から200億円を「北九州市ボートレースによる未来のまちづくり投資基金」に繰り出す。

◆課題(変革案)3の打ち手

【競輪事業】

- 子ども食堂や地元向け夏祭りの実施など、企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進する。
- 多目的施設として、スポーツイベントの実施や地域の運動会などへの開放を進め、北九州メディアドームの利用者数の増加を目指していく。

【ボートレース事業】

- 子ども食堂や地元向け夏祭りの実施など、企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進する。
- 先行事例を参考にしつつ独自性を活かした芝生広場や遊具を備えた地域貢献施設の整備(ボートレースパーク化)を推進する。
- クレカ若松(地域交流施設)を地域住民の活動拠点として定着させる。

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

打ち手の検討体制及び実行体制

2018年に収益事業にふさわしい経営形態へ移行し、更なる経営強化を図るため、競輪、ボートレース事業に地方公営企業法の全部を適用し、公営競技局を新設。

また、経営戦略の見直しや改訂時には、競輪・ボートレース関係団体のほか学識経験者から意見を伺う体制をとっている。

【参考】北九州市公営競技事業経営戦略後期計画(R6～10年度)策定時

～有識者～

(敬称略)

学識経験者	田 村 大 樹	北九州市立大学 教授(経済学部長)
学識経験者	日 高 京 子	北九州市立大学 教授(基盤教育センター)
公認会計士	藤 田 和 子	藤田公認会計士事務所 所長

～関係者～

(敬称略)

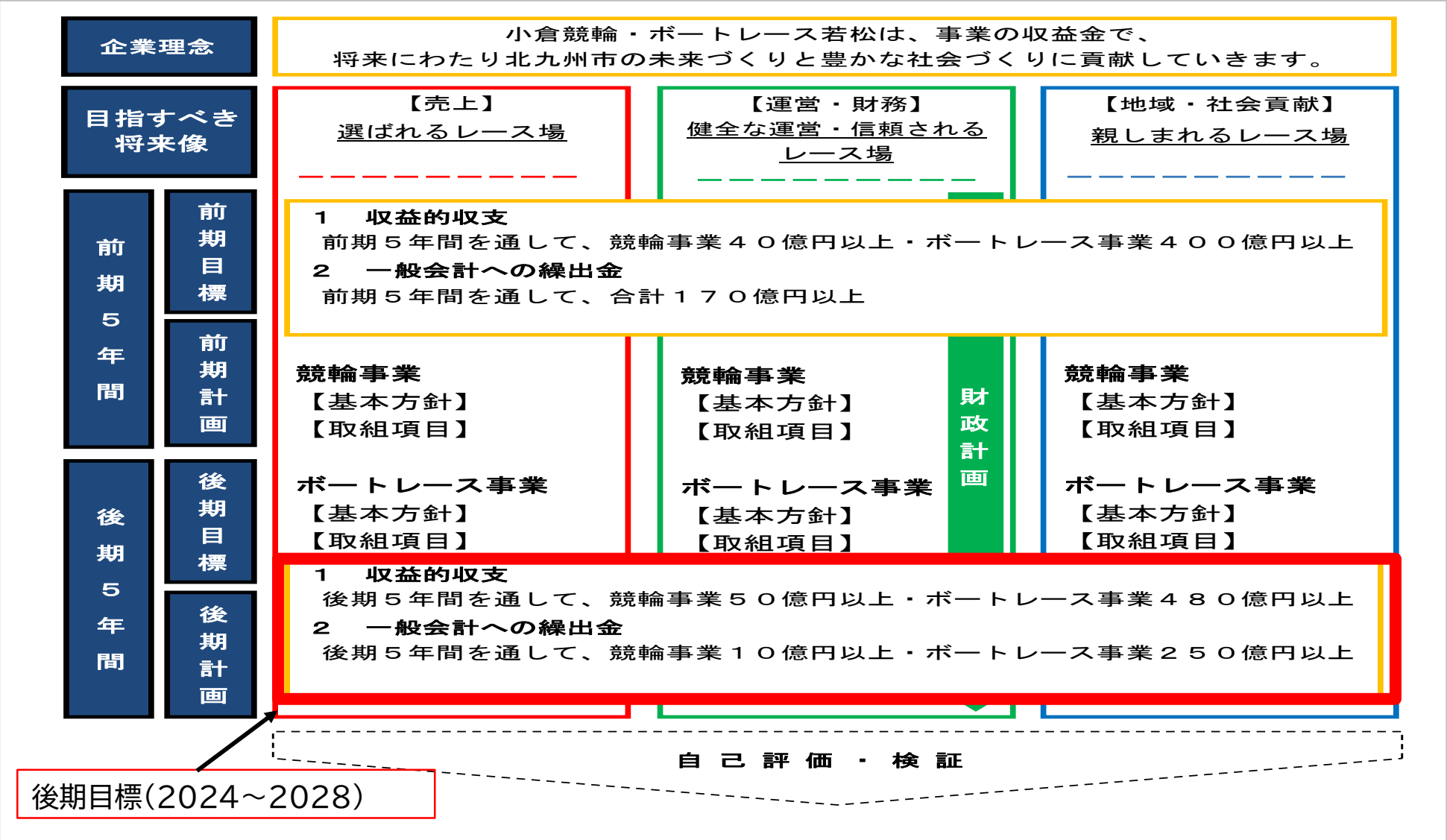
競 輪	大 久 保 修 次	全国競輪施行者協議会事務局次長兼企画部長
ボートレース	川 津 大 輔	全国モーターボート競走施行者協議会常務理事

目次

- 1 クラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 現状の把握①（経年の推移等）
- 4 現状の把握②（他都市比較）
- 5 ユーザー意見
- 6 他都市事例
- 7 課題（変革案）
- 8 課題(変革案)実行のための打ち手(案)
- 9 打ち手の検討体制及び実行体制
- 10 行程表（スケジュール）

行程表(スケジュール)

北九州市公営競技事業経営戦略に基づき、目標を達成するために、2024年度から2028年度までの後期5年間で同経営戦略に記す項目、先述した課題に取り組んでいく。



資料：北九州市公営競技事業経営戦略【後期計画（令和6年度～令和10年度）】

參考資料

別冊「北九州市公営競技事業経営戦略【後期計画(令和6年度～10年度)】」